

『女性は男性よりもリスク回避的か？』

武蔵大学 茶野 努

住友生命 増井 正幸

武蔵大学大学院生 麦 宇恒

リスク回避度が男性と女性で体系的に異なるかどうかは、それが職業の選択、投資の意思決定、製品の購入等々に影響を及ぼす可能性があり、経済学上重要な問題である。

本論文では、生命保険のニーズの一つが遺族保障にあるという観点から、既婚者を含めて分析対象とし、保険加入というリスク回避行動における性差の有無を検証した。分析に用いたのは、「生活保障に関する調査」（生命保険文化センター）の個票データである。既存研究に倣い保険金額／収入、医療保険入院日額／収入をリスク回避度の代理変数とした。推定モデルは以下の通りであり、保険未加入者も含まれているため、推計方法にはトービット・モデルを用いた。

モデル①

$$\ln(\text{保険金額}/\text{収入}) = \alpha_0 + \alpha_1 \text{女性} + \alpha_2 \text{年齢} + \alpha_3 \text{年齢}^2 + \alpha_4 \ln(\text{金融資産}) + \alpha_5 \text{独身} + \alpha_6 \text{子供} + \alpha_7 \text{保険知識} + \alpha_8 \text{大卒以上} + \varepsilon_1$$

モデル②

$$\ln(\text{医療保険入院日額}/\text{収入}) = \beta_0 + \beta_1 \text{女性} + \beta_2 \text{年齢} + \beta_3 \text{年齢}^2 + \beta_4 \ln(\text{金融資産}) + \beta_5 \text{独身} + \beta_6 \text{子供} + \beta_7 \text{保険知識} + \beta_8 \text{大卒以上} + \varepsilon_2$$

また保険知識・学齢のデータがないけれども、2001年度から2013年度を対象に推定モデルの頑強性をチェックした。得られた結論は次のようになる。

- ① 女性ダミー変数が有意に正で、女性は男性よりリスク回避的である。
- ② 年齢とリスク回避度の関係は逆U字型である。
- ③ 金融資産が大きいほど、リスク回避度の値が大きくなる。
一方で家族構成については、
- ④ 2013年度以前は独身のリスク回避度の値は低い、2019年度以降そうではない。
- ⑤ 2007年度以前を除けば、リスク回避度の値は子供がいる方が大きい。

というように安定的な関係は得られなかった。

さらには、今後より精密に検証していく必要はあるが、女性ダミー変数の係数が東日本大震災後で低下していて、外生的ショックがリスク許容度を構造的に高める可能性があるかもしれない。また、リスク回避度が高いのはドーパミンの水準が低い、セロトニンの水準が高いなど遺伝子の影響を受けることが、多くの実証研究によって知られている。「怖がり」の遺伝子（CNR1遺伝子）の分布地域をダミー変数として分析したところ、この遺伝子がリスク回避度を高める可能性を示唆する結果が得られた。